

## 大倉山公園 楠町8丁目周辺

市立中央図書館のある一帯は大倉山と呼ばれている。この大倉山の旧名を広厳寺（こうごんじ）山といい、これは山の南麓に広厳寺があったからで、その後この寺の東に安養寺（あんようじ）が出来てからはこちらの寺の名を取り安養寺山というようになった。大倉山と言われるようになったのは明治に入ってからである。明治に入り官有地となったこの場所を、大倉喜八郎が買い取り別荘を建てた。この別荘は「春畝館（しゅんぼかん）」と呼ばれ、その名は初代兵庫県知事の伊藤博文の雅号からとっている

（この建物は、1973<昭和48>年から神戸市立大倉山老人いこいの家として使用されていたが、阪神・淡路大震災で全壊してしまった）。その後、大倉喜八郎は、1909（明治42）年に

ハルビンで韓国青年の安重根に暗殺された伊藤の功績顕彰の場にしてほしいとの思いで、1910（明治43）年に神戸市に寄付し、翌年公園として公開した時から、「大倉山」と呼ばれるようになったのである。1911（明治44）年、大倉山の山頂に伊藤博文の銅像を建造したが、太平洋戦争中に供出され、台石だけが残された。1973（昭和48）年にふるさとの森が作られた。なお、このふるさとの森の一角に、神戸鹿児島県人連合会が1999（平成11）年5月20日に建てた、阪神・淡路大震災の「震災慰霊碑」がある。

公園内には、1911（明治44）年10月建立の「大倉山公園碑」（威仁親王刻）、1912（大正元）年10月建立の教育勅語下賜三十周年記念「克忠克学」の碑（水島鏡也書）がある。また、神戸文化ホール横の広場には、孫文の胸像や画家・橋本関雪の生家を示す碑などがある。

場所：神戸市中央区楠町7丁目周辺



大倉山公園碑



伊藤博文の銅像台座

公園内のふるさとの森(青森県)辺りにある